

# つながる通信

～現役大学生から見た政治～



## 政務活動費、課題アリ！！

政務活動費は、議員の政策立案のための調査研究や広報などの促進を目的として制度化されました。

### 課題

#### ①事務所費や人件費を、政務活動費から支出できない

→議員が事務所を構え、事務所スタッフを配置することは、議員と市民とをつなぐ窓口としての役割を担っているが、政務活動費から支出できないことは議員の負担になっている。

#### ②政務活動費の詳細な収支報告が手に入りづらい

→現在、豊中市議会はホームページで政務活動費の収支報告を行っているが、おおまかな区分(調査研究費、資料作成費等)でのみの公表となっている。

### 提案

#### ①政務活動費の適正化を！！～規制緩和とチェック体制の強化が必要～

- ・一律に規制をするのではなく、事務所費や事務所人件費は政務活動費から支出可能にしてはどうか。
- ・自宅兼事務所や、親族が事務所スタッフであるケースなどの不正支出への懸念もあるが、それらに対するチェック機能を議会事務局が果たせばいいのではないか。

#### ②より詳細な収支報告を！！～市民に分かりやすい情報提供、情報公開が必要～

- ・政務活動費の支出要件を緩和する一方で、領収書の全面公開など、より詳細な収支報告をすべき。
- ・私たち市民も政務活動費が適正に使われているか関心を持つことで不正使用を防止すべき。

#### ★一番大事なことは、しっかりと議員活動をしてもらうこと！！★

可能な限りの説明責任を果たしてもらうことが必要だが、質の高い、内容の濃い議員活動を行うために、政務活動費はもっと柔軟に活用できるようにしておくことも必要ではないか。

## 2か月の活動内容

### 議会傍聴



減多に入る機会のない市議会で、本会議や予算委員会の傍聴をしました。議題は身近なものばかりでした。

### 街頭活動

早朝から、市内のいくつかの駅前で、自分たちが政治に接して感じたことや問題を演説しました。



### 集会での発表



神原議員の集会で、自分たちが関心を持った政務活動費のことや議員の活動実態について発表しました。

### つながり通信のポスティング

毎月発行のつながり通信を手分けして、各地域にポスティングしました。ぜひこれからもつながり通信を読んで下さい！



市立小・中学校で実施

# 現行の習熟度別授業に提案！！

## 現状

- ・豊中市の公立小中学校では、英語・数学の30%程度で習熟度別授業が実施されている。
- ・授業速度ではなく、授業内容のレベルでクラスが2段階に分けられている。
- ・主に、授業についていくことが困難な児童・生徒のために実施されている。

二段階のクラス分けでは不十分で、各児童・生徒に、あったレベルの授業を受けさせることができない。

## 提案

習熟度別授業に、クラス分けだけでなく、各児童・生徒が自分のレベルにあった内容を学べる、学年の枠を超えた選択制の授業を実施してはどうか？

## ～学習意欲の向上で、学力向上を！！～

★学年の枠を超え、自らのレベルにあった授業を受けられることで、学習意欲の向上が見込まれる。

## 感想

今回議員インターンを通じて、議員の活動は早朝からの通信配りやポスティング、事務作業など、地味で大変な活動が多いという印象が残りました。しかしその活動を実際に体験するうちに、このような小さな積み重ねが市民の信頼を得るために必要だと思うようになりました。情報発信、地域交流といったミクロな事が議会という大きなものを動かす源だと学習できてよかったです。

大阪大学 経済学部 太田泰彰

このインターン活動で、固定概念にとらわれないことの大切さを学びました。私は他人の意見や噂に流されやすく、一般的な意見を鵜呑みにしがちでしたが、自分の目で見て、耳で聞いて、肌で感じる事が大事だと感じました。議員の世間一般のイメージと、自分で感じた議員の姿が違ったことから明らかだと思います。「食わず嫌い」ならぬ「知らず嫌い」はやめたいと思うようになったことが、一番の収穫だと思います。

大阪大学 法学部 竹井駿

インターンを経て選挙について大きく考え方が変わりました。これまで全く興味を持っていなかったのですが、神原議員から議会や議員の仕事、市政について色々と見たり、聞いたり、実際に経験させてもらう中で自分の地元をよりよくするために投票したいと思えるようになりました。いい経験になりました。

大阪大学 経済学部 石井政成

2か月の活動で感じたことは、議員は決して遠い存在ではないということでした。活動内容は多様でしたが、扱うことは非常に身近な事でした。自分はこれまで政治との接点が全くなく、今回貴重な機会を得ることができて良かったと思いますが、政治との接点を持たない人たち、特に自分と同じ若い世代に政治の必要性を知ってもらうことがこれからのために必要だと感じています。

関西学院大学 法学部 牧省吾